

三年学年だより

No. 11 2月号

令和8年2月発行

309HR

The world is bigger than you think. Don't be afraid — take a step forward.

入試を終えた人もいれば、これからが本番という人もいます。

同じ教室にいても、今の気持ちはそれぞれ違うと思います。ただ一つ共通しているのは、皆さんが今、高校生活の終盤にいるということです。今回の学年だよりは、これまで毎月バトンをつなぎながら皆さんを見守ってきた、学年の先生方からの最後のメッセージになります。

ここまで、本当に頑張ってきました。

結果がどうであれ、ここに至るまでの努力や迷いは、皆さん一人ひとりの中に確かに残っています。

最近、皆さんを見ていて感じるのは、知らないうちに「今いる場所」が世界のすべてになっていないかな、ということです。

「井の中の蛙大海を知らず」という言葉があります。留学経験を視野に入れることも含め、3年間、皆さんには何度も伝えてきました。高校という環境は安心できる一方で、視野が狭くなりやすい場所でもあります。これからは、少し意識して外に目を向けてみてください。

社会のこと、大学での学び、仕事の世界、地域の外や海外のこと。

知らないことは、選択肢にはなりません。今後の皆さんの糧になる経験を、「いつか」「そのうち」といった話で終わらせらず、小さくてもいいから、実際に行動してみてください。本を読む、人の話を聞く、説明会に参加する。そんな一步で十分です。動くことで、見える景色は必ず変わります。

入試を終えた人へ。ここがゴールではありません。

これから本番を迎える人へ。不安になるのは当然です。

それぞれの立場で、次の一步を考え、最後までやり切ってください。

残された高校生活は、決して多くありません。

この時間を、次の世界へ進むための準備として大切にしてほしいと思います。

皆さんのが自分の世界を広げていくことを、皆さんの貴重な3年間に携わらせてもらった者として、心から願っています。

(309HR担任)

「冬来りなば春遠からじ」

共通テストがやっと終わったかと思ったら、すぐに私大入試、二次試験と、慌ただしい日々はまだしばらく続きそうです。思うようにいかず、沈んだ気持ちになっている人もいるかもしれません、受験は一つの通過点にすぎません。点数は変えることはできません。けれども、私たち自身はいくらでもこれから変わっていくことができます。

小さい頃、粘土遊びをしたことがあると思います。私たちの人生も粘土細工みたいなもので、作っては壊し、試行錯誤しながら自分という人間を作り上げていくのではないかでしょうか。作り直すときには粘土は硬くなっていて何回も力を入れてこねなおさないといけません。手間はかかりますが、また新たな形を作っていくことは可能なのです。そして、忘れてはいけないのが、幼い頃や苦しんでいる時に、その粘土と一緒にこねて柔らかくしてくれた存在です。そっと気遣ってくれている人や応援してくれている人が周りにはたくさんいます。だから大丈夫です。みんなに素敵なお春がきますように！そして何年後かにこの受験が大切な記憶としてみんなの中に残りますように！

(309HR副担任)